

おもだか もん
沢瀉の紋 (緒川)

緒川の高台に、「緒川城址」と刻んだ石の柱が建っている公園があります。ここは、文明七年、西暦一四七五年といえますから、いまから約五百年も前、水野貞守という侍の大将が城を築き、賢正、清忠、忠政、信元と五代にわたって知多・西三河に勢力をふるったところです。

この城の初代、水野貞守が、三河の足助弾正左衛門を攻めるときの話です。水野方では、それまでにもたびたび兵を出しましたが、なかなか

か勝つことが出来ないうでいました。あるとき、日ごろ信仰していた知立大明神から、「明朝、出陣の途中で白い花を見つけたら、必ず戦に勝つであろう。」という夢のお告げがありました。貞守は、あくる日の朝早く、兵を率いて足助勢の陣地に向かいました。すると、しばらく行くとところで、沢瀉の花がいっぱい咲いている沢がありました。沢瀉は、水田や湿地帯に生えている植物で、夏に三弁の白い花を咲かせます。



また、その球根は、「くわい」といって、食用
 にもなり、戦場で食糧が無くなったときには、

大変都合のよいものでした。

「沢瀉の花が咲いているぞ。」

「おお、これこそお告げのあった白い花だ。」

兵士たちは、喜んでこの花をとって笠にさし

ました。そして、大いに氣勢をあげて足助勢の

本陣に攻め込み、大勝利をおさめました。

それ以来、

水野家の家紋は、

この時、笠につけ

た沢瀉を使用す

ることになりま



▲ 総領家の家紋



▲ おがわしょうがっこうこうしょう
緒川小学校校章



▲ ぶんけい かもん
分家系の家紋

も使われ^{つか}ています。
した。そして、^{げんざい}現在では、^{おがわしょうがっこう}緒川小学校の校章に^{こうしょう}